12 月 11 日のメッセージ

聖書：ゼファニヤ書　3：　14－18

「王なる主はお前の中におられる」

何度見ても、どの角度から見ても、神の正義と公平からほど遠い世界と言わざるをえない現実があります。しかし、神はそのような世界をそのままにはしておかれません。

「わたしは／祭りを祝えず苦しめられていた者を集める。」(ゼファニヤ書 3:18)

必ず、この時を打ち破り、閉塞感いっぱいの人々に恵みを、祝福をもたらす、と約束されています。だから、神はそのために多くの預言者を立てられたのです。そして、神の約束は必ず果たされることを伝え続けてこられました。

しかし、何度喜びの言葉が伝えられても、人々の心はなかなか安定しません。何か事が起こるたびに、人々は自ら神の前から離れ、自ら神の公平を打ち壊していきました(「イエスは民衆にこのたとえを話し始められた。『ある人がぶどう園を作り、これを農夫たちに貸して長い旅に出た。収穫の時になったので、ぶどう園の収穫を納めさせるために、僕を農夫たちのところへ送った。ところが、農夫たちはこの僕を袋だたきにして、何も持たせないで追い返した。』」ルカによる福音書 20:9-10)。

それでもなお、神は人間を救うことを諦められません。自分の独り子を世に与えることを決意されます(「そこで、ぶどう園の主人は言った。『どうしようか。わたしの愛する息子を送ってみよう。この子ならたぶん敬ってくれるだろう。』」ルカによる福音書 20:13)。

ただ、その前にもう一度、神の思いを伝える者を地上に送ろうと思われました。神の独り子の先駆けとして、道を備える者を立てられます(「彼は主の御前に偉大な人になり、ぶどう酒や強い酒を飲まず、既に母の胎にいるときから聖霊に満たされていて、イスラエルの多くの子らをその神である主のもとに立ち帰らせる。」ルカによる福音書 1:15-16)。

その役割は、「逆らう者に正しい人の分別を持たせ」(ルカによる福音書 1:17)ること。成長したヨハネは、ヨルダン川で悔い改めの洗礼を授けるようになります(「そこで、ヨハネはヨルダン川沿いの地方一帯に行って、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。」ルカによる福音書 3:3)。自らもその歩みを律し、神の前に正しく歩み続け、イエスの到来を伝え続けました。

「正義は御前を行き／主の進まれる道を備えます。」(詩編 85:14)

この言葉通りに生きたのです。

いよいよ主の到来は近づいています。いや、実はすでに私たちの間に主は足を踏み入れられています。すでに蝋燭は 3 本立てられ、私たちの心はますます期待と喜びに満ちています。

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」(テサロニケの信徒への手紙一 5:16-18)

いよいよ時が近いからこそ、私たちは喜び、そして一層、神に祈るのです。「今すぐ来てください。あなたの正義と公平を実現してください」と。

「イスラエルの王なる主はお前の中におられる。お前はもはや、災いを恐れることはない。」(ゼファニヤ書 3:15)

私たちは聖書の言葉を通して、すでにこの事実を知っています。ならば、私たちも主によって立てられた先駆けとして、この世界に喜びを伝えたい。神の正義を体現し、いつも祈る私でありたい。との思いが沸き起こってきます。

私たちは今、改めてその役割、先駆けとしての役割へと招かれています。少しでも応える私となりたいと心から願います。